

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 9月 20日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|---|-------|-------------|
| 事業所番号 | 2670600200 | | |
| 法人名 | 三雲ケアサービス有限会社 | | |
| 事業所名 | グループホーム三雲 | | |
| 所在地 | 〒520-3221 滋賀県湖南市三雲ナガレ69 (電 話) 0748-72-3004 | | |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター | | |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-21 八千代ビル東館9階 | | |
| 訪問調査日 | 平成19年8月18日 | 評価確定日 | 平成19年10月17日 |

【情報提供票より】(平成19年7月19日事業所記入)

(1)組織概要

| | | | |
|-------|------------------|-----------------------|--------|
| 開設年月日 | 平成 15 年 3 月 15 日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 9 人 | 常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 | 3.75 人 |

(2)建物概要

| | | | |
|------|-------|-------|-------|
| 建物構造 | 木造造り | | |
| | 2 階建て | 1 階 ~ | 2 階部分 |

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|---------------|----------------|-----------|
| 家賃(平均月額) | 50,000 円 | その他の経費(月額) | 円 |
| 敷 金 | 有(円) | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(300,000 円) | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 |
| 食材料費 | 朝食 | 250 円 | 昼食 450 円 |
| | 夕食 | 500 円 | おやつ 300 円 |
| | または1日当たり 円 | | |

(4)利用者の概要(7月 19日現在)

| | | | |
|-------|---------|---------|---------|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 0 名 | 女性 9 名 |
| 要介護1 | 3 名 | 要介護2 | 4 名 |
| 要介護3 | 1 名 | 要介護4 | 1 名 |
| 要介護5 | 名 | 要支援2 | 名 |
| 年齢 | 平均 89 歳 | 最低 76 歳 | 最高 95 歳 |

(5)協力医療機関

| | |
|---------|-------------|
| 協力医療機関名 | 生田病院 芦田歯科医院 |
|---------|-------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

駅から近く、自然の多い、静かな住宅街に立地しています。リビングや、各居室の窓からは、豊かな緑が見渡せ、心和む風景に囲まれています。ホームは、民家改造型で、外見、ホーム内もとても家庭的です。階段や、あがりかまち等、段差もありますが、それが、身体機能の維持、向上につながっていて、入居者は、階段の昇降も軽やかに、元気に過ごされています。日中は、生活感のあるリビングで、趣味のこをしたり、家事をしたりと思いいいに、毎日を楽しんでおられます。その中で、入居者同士の仲間意識が生まれ、助け合う場面も多く見られます。「心生き活き、心楽しく、その人らしく」の理念どおり、一人ひとりのペースを守り、その人らしさを第一に考えたケアをされているので、皆さんの表情が、生き活きされていました。あたりまえであるということ、あたりまえにでき、やわらかな時間が流れているホームです。医療との連携も密であり、疾患を持つ高齢者にとっては安心感があります。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回の評価で、気になった、プライバシーについて、職員間で検討する機会を持ち、改善できるように取り組まれました。今回話し合った改善点にも、十分に話し合い、取り組まれることを期待します。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 今回の自己評価は、全職員で取り組まれました。自己評価をすることで、自ら改善点を知ることが出来、有意義な機会とされています。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 運営推進会議では、ホームからは、ホームの機能や、認知症の話等をし、地域の方々から、様々なアドバイスや、情報をもらえる機会にされています。そこから、なじみの関係も増え、地域からの理解も得られてきました。今後も、積極的に活用していきたいと考えられています。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 毎月、請求書の送付時には入居者の様子や、状態を書いた手紙を同封したり、電話での連絡も頻繁で、家族とは良好な関係を築かれています。ホームの玄関には意見箱が設置されており、相談窓口を明確にして、気軽に話をしていただけるように心掛けています。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 地域の夏祭りに参加されています。また、自治会にも加入し、顔なじみ関係作りに努力されています。地域からは、野菜等の頂き物も多く、今後は、ホームからも積極的にアプローチし、多くの地域行事に参加したり、また、ホームの行事にも、気軽に参加していただけるように取り組む予定です。 |

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------|----|---|--|------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「心生き活き 心楽しく その人らしく」の法人の理念は、そのまま、ホームとしての理念であり、入居者が、毎日笑顔で、その人らしく暮らせるようにとの思いで、日々取り組んでいる。理念は、玄関の見やすい位置に掲示されている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念の実践に向けてのケアを提供しているし、管理者が話すことはあるが、全員の共有とするところかどうかはもう少し踏み込んだ、意思確認が必要である。 | ○ | 職員間での話し合いを重ねながら、同じ意識を持ち、ケアサービスを提供されることを期待する。 |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の夏祭りに参加している。自治会にも参加し、地域の方々から親しくして頂いている。運営推進会議を通じて、地域の行事のお誘いも頂ける様になり、今後は、ホームからも積極的にアプローチし、多くの行事に参加できるように働きかけていきたいと考えている。 | ○ | ホーム主催の行事にも、地域の方をお誘いし、参加して頂けるような働きかけも期待する。 |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 今回の自己評価は、職員全員で取り組んだ。自己評価をすることで、自然と、改善点が把握でき、今後の取り組みに活かしていきたいと考えている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 自治会長、民生委員、地域包括センターの職員、家族、ホームが集まり、運営推進会議を開催している。ホームの取り組みや、認知症についての話をしたり、参加者からは様々な意見や、アドバイスをもらうことが出来、有意義な場となっている。今後は、老人会の会長にも参加を働きかけていきたいと考えている。 | | |

グループホーム三雲

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|------|--|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 行政とは、密に連絡を取り合っている。相談ごとに、アドバイスをもったり、疑問点を質問したりでき、協力関係ができている。行政からの信頼もあると自負している。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月、請求書の送付時には入居者の様子や、状態を書いた手紙を同封している。ホームとしての独自の「便り」も4ヶ月に一度発行している。電話連絡も頻繁にしている。手紙の書式ですが、記入者を書く欄や、検印は必要かどうかの再考が望まれる。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に、意見箱を設置している。ホーム側や行政の相談窓口も文書に明記している。家族には、気軽に話していただけるように接していて、訪問の際には話をしている。 | ○ | 遠慮がちな家族が多いので、なかなか思いを話していただけないこともあるので、項目を決めてのアンケートを年に1～2回実施されてはどうか。 |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | なじみの関係が続くようにとの配慮はしている。移動の心配はないが、やむを得ず、職員の交代がある時は、なるべく不安を与えないように心がけている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ホームでは、外部、内部とも多くの研修の機会を利用し、順次参加できるようになっている。受講した研修は、報告書を作成し、資料と共に回覧して、共有を図っている。 | ○ | 研修報告を回覧した際には、確認のサインと日付の記入の徹底が望まれる。今後は、年間の研修計画をたて、職員のステップアップを図られることを期待する。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協議会に参加し、年に数回の交流会を持っている。その場で、意見交換したり、情報をもったりしている。近所のホームとは、合同で運動会を開催し、入居者同士の交流もある。今後は、職員間での交流会も持ちたいと考えている。 | ○ | グループホーム事業所が集まるいい機会です。そこから、行政に提案や、意見をだしてみてもどうか。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|---|------|---|
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 介護保険の短期入所を利用し、一週間程度の体験入居の制度がある。体験入居していただくことで、ホームに馴染めるかを見極めている。また、入居前には、本人、家族と十分な話し合いの場を持っている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 入居者の、今までの体験を活かしていただいている。例えば、食材から、調理方法を教えていただいたり、感謝を表している。日々の生活の中で、ねぎらい合いながら、共に過ごすことを大切にしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者一人ひとりの気持ちに添って、ケアすることを心がけている。常に希望を聞いて行動しているが、意思確認が困難な方には、充分ではないと感じている。 | ○ | 意思を表すことが困難な方にも、思いを汲み取ることが出来るように、働きかけることが望まれる。 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 入居者や家族の意見、希望を採りいれ、職員間で話し合ったことを基に、ホームでの生活に密着した介護計画を立てている。 | ○ | 今後は、センター方式にも取り組む予定であり、十分なアセスメントから、入居者のニーズを引き出すことが求められる。 |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 通常は、3ヶ月に一度の見直しで、状態の変化にはすぐに対応している。全職員参加のカンファレンスを開催し、話し合い、計画の評価、モニタリングを行い、再アセスメントにつなげている。今後は、カンファレンスに、家族の参加を呼びかけたいと考えている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 以前に入居されていた方の家族に、便りを出したり、何時でも気軽に相談して下さい。と話している。入院先で亡くられた方が、ホームを我が家だと思っていただいたことを知り、ホームで葬式をしたこともある。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 往診が月に一回ある。緊急時には、24時間連絡体制があり、すぐの対応も可能である。ホームには、看護師がいて、入居者の状態を見逃すことなく、医療的なことが、細やかになった。健康チェックも細やかになり、医療との繋がりが密になっている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 法人としてのターミナル指針については家族の同意を得ており、意向についてもあらかじめ把握している。その時になれば、家族や、医師、看護師と相談の上、ホームで緩和ケアをするかどうかもう一度話し合い、受け入れが出来る状態であれば、ホームで最期を看取りたいと考えている。医師からの協力も約束できている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | プライバシーには十分に配慮し、職員一人ひとり、言葉がけにも注意している。管理者からの指導もある。個人情報保護の観点から、漏洩がないように、記録物は、扉付きの棚にきちんと保管している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 常に希望を聞き、意思確認をしながらケアしている。例えば、入浴時間は希望の時間に入って頂いている。就寝時間や、起床時間も自由である。買い物や散歩も、行きたいと思われた時に行けるようにしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|------|--|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | その日の献立は、その日に考え、調理、食事、後片付けと、入居者と一緒に行っている。台所仕事が好きの方が多く、楽しく、準備が出来る。入居者からは、味付けや調理方法を教わっている。 | ○ | 食事時間には、テレビを消して、心地よい音楽を流す等されてはどうでしょうか。それと、入居者のエプロンは、ホームでは必要かどうか、検討されることが望まれる。 |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 午前から、夕食前くらいまでなら、自由に選んでもらい希望を尊重して、ゆっくりと入浴してもらっている。お風呂の好きな方には、毎日でも可能で、汗の季節には、シャワー浴であればすぐに対応できる。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 畑仕事の得意な方、調理や洗濯の家事が得意な方等、一人ひとりの得意なこと、好きなことを把握し、日々の生活の中で、力を発揮してもらえるように取り組んでいる。ホームでは、一人ひとりの役割が、自然とできている。 | ○ | センター方式の生活歴シートを活用し、更に細やかな生活歴を把握し、記録に残されることが望まれる。 |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 外へ行きたいと思われた時には、すぐに外へいけるような支援をしている。気候に合わせて、散歩にも出掛けている。外で絵を描いたり、畑仕事をしたりしている。今後は、皆で遠出をしたいと考えている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中はほとんど、鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。庭や駐車場には自由に出入りされている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 火災に関しては、年に二回、消防との協力で、避難訓練を行っている。地域とは、お互いに協力しあうことを約束している。今後は、地域の方々と、一緒に避難訓練をする予定でる。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|---|---|------|--|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量、水分摂量は把握し、記録に残している。栄養バランスも気を付けている。嗜好の対応もしている。水分は、一日に、1000～1500ml摂ってもらえる様に支援している。 | | 摂取量の記録方法ですが、全体を10割、あるいは5割とし、その中で、何割食べられたかを、記録されてはどうか。再考されることが望まれる。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 民家改造型で、外見もホーム内も一般家庭と同じである。家具類や、調度品も家庭的であり、リビングの窓からは緑が見渡せ、心が和む風景がある。玄関の犬の置物が、ホームに帰ってきたのだという安心感を与えてくれる。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 新しい物を揃えるのではなく、使いなれたなじみの物やこだわりの物を持ってきてもらい、その人らしい、居心地のいい居室作りをされている。仏壇や家具など、自分の大切な物を持ってこられている。 | | |